

## 調布の財産 国分寺崖線 を守る

調布に残る大事な自然、国分寺崖線。その雑木林を守るため毎月笹刈など雑木林の保全活動をおこなっているところがあります。深大寺自然広場の東樹林を対象地とした「カニ山の会」。第4中学そばの「若葉町第3緑地」。NTT敷地の西側では「入間・樹林の会」。薪や落ち葉を必要としなくなった現代でも、自然の残る緑地として市民の癒しの場となるよう、地道な活動が続けられています。

### カニ山の会

10月13日、13名の参加者が適当に3グループに分かれて今年度2回目となる秋の植物調べを行いました。

- ・ 草本の種類を調べる
- ・ 樹木名を調べて樹名板作成時に備え、名前を書いたテープを付ける
- ・ 3年前に設置した方形枠の植生を調べる

その結果「草本類は50種以上記録されたが目だった変化は無く、笹刈をした場所も大きな樹木の陰になるせいか、特に新たな芽生えは見られなかった。キンランの葉が盗掘されずに残っていて良かった。」

「樹木は25種程記録。特に変化は無い」

「1.5m四方に仕切った方形枠内は1年目に96本のコナラが芽生え、イヌシデは全く無かったが2年目になるといきなりイヌシデが458本、コナラ79本と逆転。今回はイヌシデが107本、コナラも42本と両方共減少。代わりに今まで無かったエゴノキが5本出て来て方形枠内を覆うほどに大きくなっていった。その他13種ほどの樹木がそれぞれ10本以下だけ出ている。」

アズマネザサやイネ科の雑草は刈っているが、今後この枠内の樹木をどうするか考えていきたい。将来的には間引きをして育てることも視野に入れるが、しばらくはこのまま自然の変化を見守りたい。などの観察意見を記録しました。以上3つの調査の後、林内の密度、日照条件等を考慮しながら、枝等の剪定箇所や伐採木等についても話し合いました。



図鑑を片手に植物名を調べるメンバー  
スズメバチの死骸も発見！作業には注意が必要。

#### 活動後のメンバーの感想

- ・ 気付かずに歩いていたものが多くあった。
- ・ 植物調査は始めて。感覚で楽しんでいましたが、勉強の必要性を感じた。
- ・ 話し合いながら樹木の名前を探すのが、楽しかった。
- ・ 方形枠で、イヌシデが急激に減少していたのが寂しかった。
- ・ ガマズミの美しい赤が良かった。
- ・ 物忘れがひどく、植物の名前も終わり頃にやっと思い出してきた。
- ・ 覚えても、どんどん忘れてしまう。図鑑が大切。
- ・ あの小さな方形枠の中に多くの植物があり驚いた。
- ・ 林が明るくなり、手入れされている感じが出てきた。
- ・ もっと花や実のなる林にしたい。

♪活動の「ふりかえり」終了後、皆で野草園奥の広場へ行き、ナンバンゲルという変わった寄生植物を見たり、エノキやスタジイの実を味わって秋のひとときを楽しみました♪

## イベント参加者募集!



参加申し込み 及び問合せは  
市役所 環境政策課  
電話 481-7086

参加費用 大人 500円  
未就学児 200円  
12月1日(土) 9時半受付開始  
3時頃解散

いひとときを過ごします。

また参加者全員で調布産のお米や野菜を食べ、地元の恵みを味わいながら調布の自然について語り合い、楽しいひとときを過ごします。

タイトル通り、調布は都心に近い便利な住宅地ですが、特に深大寺・佐須地区は昔ながらの雑木林や田んぼなど、貴重な自然の残る場所です。

佐須の辺りを散歩したり雑木林ならではの遊びをしたりしながら、自然を満喫しましょう。

都心に一番近い「里山」の  
一日体験

# NTT 崖線樹林 観察会レポート

10/14 (日) 主催:ちょうふ環境市民懇談会

春の観察会につづき、秋の観察会を企画しました。入間町2丁目、NTT 研修センター正門前に集合。最初に、講師の根本淳さんから、「この樹林地は、過去管理がされてきたが現在は人手が入っていない。また非開放のため、林床が硬すぎず、柔らかすぎでもないという特性を持つ」という説明がありました。この樹林地は最近、手入れがされなくなったため、ツタ類や笹が生い茂るなかに、秋の草花や実ものなど70種類を超える草本を観察しました。

ここは、公の所有地であるために残ってきたといえる貴重な崖線樹林地です。国分寺崖線の連続した緑、自然の宝庫である身近な樹林地は、ぜひとも残して行きたい都民・市民・国民の財産です。「今後はそろそろ市民が管理を手伝った方がいいのでは？」の声もでていました。

## 崖線下にマンション建設予定！

ただ、現在、この崖線樹林地の西側宅地約11000㎡をNTTが売却して民間の開発にゆだねられ、土地利用計画の説明会が8月に開催され、開発計画が表出してきました。観察会終了後、その地点にも足をのびしましたが、8階建てのマンションが建てば、現在の崖線緑地の景観に大きな影響が出るのはさげられません。東京都の景観軸にも指定されている国分寺崖線での開発ルールが必要なのではないか、崖線沿いの複数の区市で連携するべき、現場をしっかりと調査してほしい、との声が多く聞かれました。英知を集めてこの貴重な自然を残していきたいものです。(江刺)



# 多摩川河川敷アレチウリ調査

「NPO 河川生態市民モニタリング研究会」からの協力依頼で10月12日環境モニターの有志が参加して多摩川河川敷のアレチウリ生態調査を行いました。この調査は昨年も行われ、多摩川の上流青梅から河口までの長い距離を、環境に関する市民団体・大学などが分担、今回は第2回目の実施となりました。

調査は決められた区分毎にアレチウリがどれくらい繁茂しているかを目視観察でランク付けし、同時に要注意外来種であるオオブタクサ、キクイモ、更にクズ、カナムグラ、などの繁茂状況も調査するものです。

昨年の調査ではアレチウリの繁茂はかなり深刻なもので他の植物の上を覆いつくしている状況が多かったのですが、今年はそれに比べるとごくわずかを感じるものでした。その原因は？と言えばやはり9月上旬の台風による多摩川の増水が大きく影響しているのでしょうか。多摩川の岸辺は10月半ば現在も流木や枯れ草が堆積し、水際の木が流され根元を洗われた無残な姿が残っています。冠水した部分の草本類はまだもとの姿を取り戻していないのかもしれませんが、足元を見つめながら歩いているとカボチャ？のようなアレチウリの芽生えがここにもあそこにも見えていました。(環境モニター：森)



アレチウリの繁茂する調査土壌厚を検す杖で測定。

# 調布の自然

くも

## カバキコマチグモ

朝晩の冷え込みも顕著になり、次第に昆虫たちも姿を見せなくなる季節になりました。

今回紹介するのは、多くの人に嫌われているクモの仲間であるカバキコマチグモです。

本種はフクログモ科に属する体長1cm前後のクモで、親グモの成熟期は夏の7~8月です。今回紹介した理由の一つは、今の時期にも見られる“巣”が本種の特徴の一つに挙げられるからです。夏から秋にかけて、河川敷や土手のススキやオギの葉がチマキ状に巻いてあるのをごらんになった方も少なくないと思いますが、これが本種の巣(写真左上)です。

巣といっても、本種の場合、餌を捉えるためのものではなく、昼間に隠れて脱皮をしたり、産卵して子育てをしたりするための住居としてつくられます。ところで、子育て

といたしましたが、本種の場合は壮絶です。産卵後、卵がかえるまで、母グモはずっと巣の中で卵を保護します。卵からかえった子グモ達は、一回目の脱皮が終わると、母グモの身体に群がり、これを食べて成長し子グモの成長と引き替えに母グモは静かに死んでいきます。

本種は、本州産クモ類の在来種の中では、最も毒性が強く、噛まれると数日は腫れて痛みがひきませんが、この巣を握ったり開いたりしなければ、まず、向こうから攻撃することはありません。お互いのためにも母グモの身を挺した子育てを邪魔しないように見守ってあげましょう。(石川和宏)





# 9月9日 田んぼの学校で かかし作り

生徒さんの感想から

●ぼくは、前の日から設計図を書きました。そして、いらなくなったCDやスズランテープ、古布やカンなどを集めました。

さて、当日、ぼくは今年で五回目のかかし作りだったので、今年もがんばろうと思いました。まず、十字の形に木を組んで、釘で止めました。そして次に、大きいビニールぶくろにマーカーでもようをかいた服を着せました。それで、古布で顔の形の顔を付けました。頭にはCDを目にして、マーカーで鼻、口を書きました。そして、うで

にスズランテープを切ってまき付けました。さらにうでにカンを付けてなるようにしました。名前は「ほうさく君」という名前にしました。

最後にメダカを取りました。田んぼには十センチよりも大きいザリガニがいました。色はとても赤くて、今まで見たザリガニで一番大きかったのでびっくりしました。メダカはとても泳ぎが速くてなかなかとれませんでしたが、でもたくさん取れてうれしかったです。取ったメダカは今でも元気に泳いでいます。(田んぼの学校 小西 実)



できた案山子が並んだ



皆で制作に励む  
(写真は昨年のような)



かかし2007

●今回は母だけ午後からの参加。いつもは参加しない父が午前からきてくれることになりました。(！)

二日前に、どんな案山子にするか家族会議をしました。母がビールの空き缶を持ってきました。切れ込みを入れたり、曲げたりしていると何かの形に見えました。あっ！目に見えるかも。いろいろ折ったり丸めたりしていると…アイデアがいろいろでできました。もうバッチリです。

そして当日、骨組みを父に釘で打ちつけてもらい、T シャツやズボンを着せ、予め考えていた頭やかざりをつけてあっという間に完成しました。作業

をじっと見ていた父が短い木をうちつけて、案山子はまるで踊っている女の子のようになりました。

次はネーミング。妹が「あき」のつく名がいいと言い張り、私は「単純すぎる」と反論し、結局「実野秋子さん」と決まりました。母が合流して、上がった案山子に驚いていました。暑くて作業は大変だったけれど、ちゃんと名前をつけるまでできてよかったです。

すでにわたしたちの田んぼのお米はけっこうすずめに食べられてしまいましたが、この案山子で効果があるといいなと思いました。  
なかむら あかり/あきこ(母)

## ◆ 入間・樹林の会

10月21日、はじめにスズメバチへの注意があり、入り口のシラカシ付近に用心しましたが見当たりませんでした。2班に分かれて方形枠調査をし、その後シャガの広場の民家との隣接地の下草刈りをしました。

プチ違いシリーズはヤマクワとコウゾ、実生のエノキ・ケヤキ・ムクノキについて観察しました。同定の時に悩むのがこの違いです。

参加者が少なかったものの下草刈り作業前・後の違いは一目瞭然でした。下草刈りを終えみんなで空をみあげ、ミズキ・ケヤキなどの落葉広葉樹や常緑のシラカシとトウネズミモチの太陽光の透過の違いをあらためて見直しました。全く光を透さな

い常緑樹の伐採も検討が必要です。また、14日に実施したNTT研修センター観察会の報告とその観察データを国分寺崖線下のNTT神代社宅の開発計画への要望書に盛り込むこと等も検討しました。(安部)



NTT住宅崖線斜面



赤紫と青の  
コントラストが美しい  
クサギの実

## ◆ 環境モニター

10月6日 参加者10名+2人  
野川の車橋から箕輪橋までの右岸の植物観察と記録

上流は草刈が入っていて野草観察はできない状態だったが、観察地はイネ科植物などが繁茂し歩きにくかった。前回よりアレチウリが目立たなかったように思う。多かったのはメヒシバ・オヒシバ・セイバンモロコシ・イヌビエ・カナムグラ・オオブタクサ。

そして写真右のシャクチリソバが花盛り、カントウヨメナも数ヶ所で花を咲かせていた。

(K)



メンバー随時募集 ☆ 環境市民 活動カレンダー & おしらせ ☆

◆環境モニター

※市内の自然環境調べや「調布そぞろ歩き」のガイドを行っているグループです。
11/3(土) 9:30~12:00
集合場所:野川 細田橋
内容:佐須用水周辺の植物調べ
持ち物:筆記用具・図鑑・ルーペ・カメラ・飲み物

◆カニ山の会

11/10(土) 10:00~12:00
集合場所:深大寺自然広場(野草園横)
内容:雑木林塾と共催
「道具の使い方」等
※原則毎月第2土曜にカニ山東樹林の保全活動を行っています。活動に参加してみたい方は直接集合場所へ。
※会費500円+保険料500円(年間)

◆入間・樹林の会

11月の活動予定については整備工事のため未定。(12月~来年2月お休み)
上記3グループとも問合せは
環境政策課: 042-481-7086 へ

国分寺崖線の整備工事のお知らせ

若葉町3丁目第3緑地(10月~12月)と入間町1丁目緑地(11月~2月予定)の散策路、フェンス等の整備工事を実施します。この期間中、緑地内は、立ち入り禁止にしますので、ご協力をお願いします。
緑と公園課(Tel 042-481-7083)

植樹祭



11.11(日) 10:00~
場所 都市森の丘(深大寺5差路西)
ドングリから育てた苗木を移植して森作りをします。トン汁も出ますよ。
参加費無料 作業できる服装で、当日直接現地へ
主催:22世紀の森づくり・神代

環境政策課の窓

先日、雑木林塾の受講生と共に 保全活動が活性化され、雑木林とヘビ山の笹刈りをしてきました。共に若返る日を期待しています。
まず、講師の方から道具の説明が 季節はまさに紅葉の秋を迎えています。私も今スポーツの秋を含め、このような活動は受講生も 堪能するべく、マラソンにチャレンジしています。今月末には、日本でも最も美しいとされる河口湖のフルマラソンにも参加する予定です。体いっぱい紅葉を感じながら、自然を満喫してきたいと思えます。この美しい日本の四季を守るためにも、ストップ温暖化! ウォームビズで行きましょう。(小松昭博)



第2回国分寺崖線フォーラム

11.10(土) 10:30~16:30
東京経済大学 2号館B301
国分寺崖線の良好な景観形成について考える
問合せ:崖線フォーラム事務局
042-325-0111

第55回多摩川クリーン作戦

11.11(日) 8:00~9:00
多摩川左岸河川敷周辺で河川の美化活動を行います。
問合せ:環境政策課

多摩川ふれあい点検

11.25(日) 13:00~17:00
集合場所:京王多摩川駅改札前
多摩川を歩き安全面から整備箇所点検をする
問合せ:環境政策課
主催:京浜河川事務所

編集後記

退院してすぐの晴天、久しぶりに佐須の田んぼまで散歩したら、秋の季語になっているモズに出会う。モズは「はや贄」の習性でも知られ、獲物を木の枝などに刺す。最近こうしたハンターたちをよく目にするのは、小動物や昆虫などの生き物が増えたのか餌が不足して住宅街まで進出しているからなのか、それとも偶然か...今は分からないが、調布の自然環境回復の兆しと願いたい。(近藤)



「ちょうふ環境市民懇談会」は、調布の自然環境を市民・行政・事業者の協働で保全・改善・回復していくために設立されました。2001年から保全活動の交流・支援、人材育成、情報収集・発信、提言などの活動をしています。ぜひご参加ください。

ちょうふ環境市民懇談会

連絡先:調布市環境政策課 tel 042-481-7086
E-mail: kankyuu@w2.city.chofu.tokyo.jp
調布市ホームページでカラー版がご覧いただけます
→市公式HP→くらし→環境・緑化→ちょうふの自然だより